ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第 128 回放送の概要（2017 年 12 月 23 日放送）

パーソナリティ

たろう
（佃　由晃）
なか
（中嶋邦弘）
かりん
（妹尾優香）
あな
（岸本幸恵）

ミキサー

門ちゃん
（門田成延）

会計

小山俊則

相談役

わだかん
（和田幹司）

1．ゲストコーナ（1）京都産業大学 現代社会学部　教授　元読売テレビアナウンサー 脇浜紀子さん（72 陽会）

脇浜さんは神戸っ子で、小学校は 1，2 年生が鵯越小学校、その後君影小学校、北五葉小学校、鈴蘭台小学校、そして鈴蘭台中学校で、下町と北区のハイブリッド的性格と思っている。部活は、野球が好きだったこと、野球部の先輩にお願いされたことから野球部のマネージャーになった。本日番組に同席の兵庫高校同級生の柏原さんは、ハンドボール部のマネージャーでマネージャー軍団を結成していました。

脇浜さんの高校生活は滅茶苦茶楽しかった。一つは体育祭委員、文化祭委員などをいくつかに関わったことである。マネージャーは練習終りにお茶、レモン水などを持って行くが、それ以外の練習中の待ち時間は生徒会室などに出入りしながら、お祭りの時期には委員をして楽しんだ。体育祭では脇浜さんが復活した種目があった。一つは休止されていた棒倒しを復活したことで、どうしても復活したいと思ったが、先生から棒がないと言われたので、知り合いのおじさんに竹の大きな棒 2 本を持ってきてもらい、表面にやすりをかけ、生徒会長に頼み、野球部ではなくラグビー部の 1 年生に紅白に塗ってもらった。もう一つは、前年まで伝統種目の一つの玉三郎リレーを、先生はふざけて走っているので体育祭の種目としては認めないということで止めさせたかった。しかし先生に掛け合い、それでは一生懸命走ればいいんですねということになり、玉三郎役とエスコート役を２人 1 組にして、エスコート役が玉三郎を背負い一生懸命走ることにした。また同時にスタンドではファッションショーをした。先生方が止めさせたかった種目をもっとショーアップした。

もう一つ兵庫高校で楽しかったのは、兵庫高校の進路指導講演会に呼ばれた時、先生方からひんしゅくを買ったので言うが、高校で一生懸命で楽しかったのは恋愛です。野球部のマネージャーとハンドボール部のキャプテンの恋でした。

大学時代は、バブルの時期で浮かれていて、勉強した記憶はない。あまり恵まれた家ではなかったので、親が途中から学費を出してくれなくなり、学費を稼ぐために家庭教師、展示会で商品説明するナレーターコンパニオンのバイトなどをしていた。国立大学の半期の授業料の１２万６千円を稼ぐために一生懸命バイトした。

大学３回生の夏休みに、お金がなくてもいかに楽しく遊ぶかを考え、沖縄慶良間諸島座間味島の民宿に住み込みのバイトをしながら、ダイビングのライセンスとった。宿代がかからず民宿のヘルパーということで安く潜らせてもらえた。２か月間民宿梅で過ごした。３回生が終わった時に休学届を出し、オーストラリアにワーキングホリデーとして、スキューバダイビングショップでガイドのバイトをしていた。舟に乗りこみガイドすることは目茶苦茶楽しかった。ダイビングは今も唯一のライフワークとして続けており、昨年 1,000 本を達成した。一番のポイントはジェラシックパークモデルになった島と言われるコスタリカのココアイランドである。脇浜さんは辛いことは忘れる才能があるが、人の名前などは覚えられず、柏原さんに外部メモリーとして助けてもらっている。

大学卒業し就職はバブル時期で内定はいくらでももらえる状況であった。４回生の時期にまだオーストラリアで過ごしていたが、テレビ局も面白いと思い受験した読売テレビが最初に内定を出してくれた。一般職でスポーツディレクターを希望したが、カメラテストを受けアナウンサーとして採用された。ストレイトニュースは新入社員全員がきちっと読めるように経験することになっている。脇浜さんは編成局に所属した。

1990 年入社で 1995 年に阪神淡路大震災が発生した。当時の状況は、関係した人全員が後悔しかないと言うと思っている。その時の教訓から、その後少しずつ災害報道が良くなっていった。震災発生時、脇浜さんは深江の高速道路倒壊現場からレポートしたが、テレビは災害報道がきちっと出来るようにはなっていないということを実感した。それがメディアの勉強を始めるきっかけになった。震災の経験がその後の人生を方向付けたと思っている。それまではワープロ、パソコンなど電能と言われるＩＴ系のものを、全く触ったこともない文系人間であったが、震災でインターネット、パソコンを理解しなければいけないと思い、それがアメリカ留学に繋がった。震災時はまだインターネット前夜で、大学で繋がる程度で情報伝達に限界があった。今のようにスマホ一つで情報を送れたなら、もっと多くの事を伝えられたと思っている。

インターネット時代の情報発信の可能性、手軽さ、楽しさを強く感じた。今は地域情報の発信・充実が専門であるが、大きかったのはズームイン朝を担当していた時に、この番組は地域の情報を全国に、地域の情報を地域に伝えるもので、それが身についたことが今に関係している。

新人アナ時代に脇浜さんのあだ名が、「あらくれアナウンサー」「しゃべるジンベイザメ」と言われたのは、朝番組「す・またん！」担当の森たけしアナウンサーが名付けたものである。彼はあだ名をつける天才で、フリーになった川田裕美アナウンサーは、「ぶたまん」、関西情報ネットｔｅｎの中谷しのぶアナウンサーは「こけし」と呼んでいた。脇浜さんはその後も「褐色の弾丸」「黒い恋人」とも言われた。

2．ミュージック：

お送りしている曲は、WMIBA（ワールドミュージックインターネット放送協会）より提供いただいた、サックスプレヤー米澤美玖さんのアルバム「Landscape」より「Glacil Winds」です。

3．ゲストコーナー（2）

後半は最近の話題から、脇浜さんのお考えをお伺いします。

（1）男女格差ランキング

日本女性は社会的活躍の場が少ないと言われ、世界的な男女格差ランキング 2017 では 147 ケ国中 114 位でかなり低い。脇浜さんが仕事を通じて感じたことは、少しずつしか変わっていかないことである。女性の参政権も昔の大先輩が頑張った結果である。脇浜さんは読売テレビ女性正社員の２人目で、一つ上の先輩が一番目で、それまでは契約アナウンサーであった。男女雇用機会均等法が 1985 年制定（1986 年４月施行）され、それを受けてテレビ局も女性正社員採用に動いた。脇浜さんと先輩は第一世代で、共通点は子どもがいない、子育て経験のないことである。第 2 世代の後輩 2 人は、結婚や子育てを契機に会社を辞めている。脇浜さんより一回り若い第３世代になってようやく、育休をとりその後現場に復帰している。このように少しずつ変化してきた。

ズームイン朝はスタジオの外からの中継が殆どで、例えば朝和歌山で中継、昼間は大阪でロケ、夜は日本海に入ることを一人で移動している。宿泊を伴い、朝山登りの中継、昼はフランス料理を食べ、次の日は温泉に入るなどの場合は、女性は荷物の準備が大変になる。メーク道具、山登りの服と靴、フランス料理用の服とアクセサリー、ハイヒールを持参する必要があり大変であるが、着替える場所もなく、駅のトイレで何度着替えたかわからない。振りそで出演の時は、ワンボックスカーのサンルーフから首を出して着替えた。女性が働くのはどういうことかについての受け入れ態勢が全く整ってなかった。今は着替え場所の用意、メイクボックスを車に積むことなど、男性から我がままと見られていたことが、必要性を言い続けることで徐々に改善されてきた。

改善スピードが非常に遅いのは、日本は女性議員が少なく（世界で 142 位）、国の大事な方針の決定が男性の考え方だけで決まっているのではないでしょうか。また企業のトップ層の古い考え方を変える教育が必要ではないでしょうか（たろう）。

女性活躍にはまず保育所が整う必要があり、九州で赤ちゃん連れで議会に出席した女性議員の話題があったが、女性同士が足を引っ張るような側面があるように感じた。ネットで女性が、私はそんなことしないとか、子どもがかわいそうとか厳しいコメントをしていた。

「保育園落ちた　日本死ね」のお母さん発言は、国会で取り上げられたので予算がついた側面が強く、

日本は衝撃を与えないと動かない面があるので、赤ちゃん連れの議員も注目を集めるための行動と思う。（たろう）

1988 年「アグネス・チャンの子ども連れ出勤論争」は、子どもを楽屋に連れて来た時、仕事場に連れてくるのはよくないと、殆どの人から非難された。今回全く同じことが繰り返されており残念である。当時はアグネス一人が孤軍奮闘していた。

（2）最近の若者について

脇浜さんは阪大大学院に入学したり、色んな大学で非常勤講師をされたり、今は京都産業大学で教鞭をとっておられ、若い人との接触の機会が多い。最近の若者は内向き志向の人が多いと言われるが、どのように感じておられるかについて：

今の若者は前向きというか、何か社会のためにやりたいと思っている人はすごく多い。お金、いい服を着る、いい車に乗る、高いレストランに行くことよりも、社会のため地域のために何かしたいという強い思いを持った若者が多い。それは素敵な事で、今はスマホで色んな情報をシェアする時代で「集合知」というが、ネットで聞くと皆が寄ってたかって解決する雰囲気がある。それが脇浜さん世代とは違うところかなと思っている。誰よりもいい成績をとるより、皆で意識を高めていこうという若者が多いところは期待できる。

その反面海外の学生と比較すると、17 年前にアメリカの南カリフォルニア大学に留学した時は、当時から日本人留学生は圧倒的に少なかった。日本以外のアジアの台湾、韓国、中国などからの留学生は非常に多く、日本人は目に見えて減っていた。その理由は日本人は十分満たされているからなのか。読売テレビ在職時、アナウンス部に入ってきた男性新入社員が、パスポートは一度もとったことがないと知り、学生時代何をしていたのかとびっくりした。パスポートを一度もとらずに社会人になることが脇浜さんの時代から考えると信じられなかった。しかし今はそのような新入社員が普通になってきている。アジアの国に比べると日本は今後大丈夫かなと心配になる。バイトをせざるを得ない人が増え、親の収入も減少傾向という経済的理由もあるかもしれないが、脇浜さんのようにワーキングホリデーで海外生活を体験することも可能なので挑戦してほしいと思う。一方海外にどんどん出かけていく若者もいるので、２極化しているようにみえる。

学生と話す時は「現場に行きなさい」「自分の五感を使って感じなさい」をいつも言うようにしている。自戒を込めた脇浜さんの人生三か条がある。

・脇浜の人生「これやる」三か条
①行動する　②現場に行く　③経験する
・脇浜の人生「これやらない」三か条
①言い訳しない　②不平不満を言わない　③人のせいにしない

大学時代は羨んで羨み事ばかり言っていた。ダイビングを始める前はバブル時代で、家に余裕のある人

はいい服を着て車を買ってもらい、ブランド物のカバンを持っているのを見て、どうして自分の家は貧乏でバイトをしなければならないのだと、恨めしくばかり思っていた。高校時代は有名塾で勉強した友達もいるが、塾に行きたいと言っても行かせてもらえなかった。中学時代両親共働きだったので自分で作った弁当を持って行ったが、裕福な生徒が嫌いな卵焼きがまた入っていると文句を言うのを苦々しく聞いていた。自分は恵まれていないと言う恨み、不平不満を大学時代まで持っていた。

それが変わったのはスキューバダイビングを始めたからである。座間味島で過ごした時、服も靴もいらず、水着があればよかった。ここではいい車に乗ることに価値はなく、空を見て 30 分後には雨が降るとか、海をみて流れているとかそういうことに価値があり、価値あるものは場所で変わってくるものであることがわかった。自分が今まで人を羨んできたことが、いかに狭い考えで生きてきたかを沖縄で感じた。その後オーストラリアに行き、世界の人と話をし、自分の五感で臭ったり肌で感じることが出来たので、不平不満を言う時間がもったいないと思った。現場に出かけ経験する方がいいなと思えるようになった。

村中で一番と言われる民宿の梅おばさんからは色んな事を学んだ。座間味は米軍が最初に上陸し集団自決もあったところで、民宿は接収されて日本軍の宿舎になっていたので、脇浜さんは、おばさんが日本軍を恨んでいると教育も受けていたので思っていた。おばさんの昔話の中で、当時利用していた軍人が、戦後かなりの時間が経って訪ねてきた時、おばさんは涙を流してうれしかったと話した。その軍人がおばさんが言っていた言葉「やっちん　うさがみ　そーれー（お兄さんお上がりなさい）」を覚えてくれていたことがうれしくて、再会を喜んだと言うのを聞いて、学校で習った事とは全然違っている事を知った。国同士の争い事や政治とは関係なく、人と人のふれあいはそういうことなんだと知った。本を読んで学べることではないと思った。

（３）「OECD の生徒の学習到達度調査結果」に対する遠藤 諭氏の「日本の子供は賢いがコンピューターが使えない」について、

http://ascii.jp/elem/000/001/410/1410256/amp/?__twitter_impression=true

脇浜さんの周りの教員は、パソコンを使えない生徒が増えていると言っている。パソコンのタッチタイピングが出来ない。タッチタイピングがどうこうではなく、今日本も気がついて小学生に対するプログラミング授業が、2020 年以降必須化されることになっている。脇浜さんは、もう少し若ければプログラミングを見につけていたかったと思っている。論理的に物事を考え課題解決していくことは凄く重要で、パソコンを使えるかどうかではなく、プログラミングが出来ることが大事である。論理的思考は今後のＡＩ（人工知能）がどうなるか、シンギュラリティ（技術的特異点）がきて経験則で生きてきた我々世代に対し、これからの人は経験則だけでは立ち向かえる時代ではなくなると思う。その時に重要なのは論理的思考で、プログラミングは是非身につけてほしい。

遠藤 諭氏は以下のように指摘しています：

日本の社会が活性化する材料の１つが“世界最先端の IT”なのだとするならば、最初のきっかけはプログラミング教育かもしれない。まだ、世界で当たり前でないなら、逆にいえばチャンスではないかと私は思う。

今日は、脇浜紀子さんにお越し頂き、脇浜さんの人となりの極一部をお伺いすることが出来ました。思った事、気付いたことはすぐに行動に移す、バイタリティあふれた方である事が良くわかりました。新人アナウンサー時代「しゃべるジンベイザメ」と言われたそうですが、魚に例えると勢いよく常に動き廻っている「ぶり」でしょうか。京都産業大学での研究と学生の指導、そして「メディアとコミュニケーデョン＝情報伝達（地域情報）」の分野でのご活躍が益々期待されます。

兵庫高校

兵庫高校

沖縄民宿梅

読売テレビアナウンサー

大阪大学大学院博士号取得

4．地域瓦版

追悼行事「1.17KOBE に灯りを in ながた」が、2017 年 1 月 17 日（水）ＪＲ新長田駅前広場で行われます。東日本大震災発生時間の 14 時 46 分、阪神淡路大震災発生時間の 12 時間後の 17 時 46 分に黙祷します。幼稚園児、小中学校生徒が作ったろうそくに点灯します。当日はボランティアを募集しています。10 時からの準備、17 時からの点灯準備、21 時からの後片付けなど、いつでも出来る時間だけ参加できます。震災で被害を受けた方への想いを風化させず、次の世代に語り継ぐため一緒に参加しませんか。お問いあわせは、078－574-2408 実行委員会までお願いします。

兵庫高校は来年 110 周年を迎えます。５月５日記念式典と祝賀パーティを開催します。司会は脇浜紀子さんです。場所はポートピアホールとポートピアホテルです。

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記ＵＲＬで視聴いただけます。

http://yukari.hyogo.jp/